

アイヌ民族文化研究センターだより NO.29

2008年9月

企画展「アイヌ語地名を歩く」
10月に 函館市で開催します
詳しくは8ページをご覧ください

山田秀三文庫の資料から

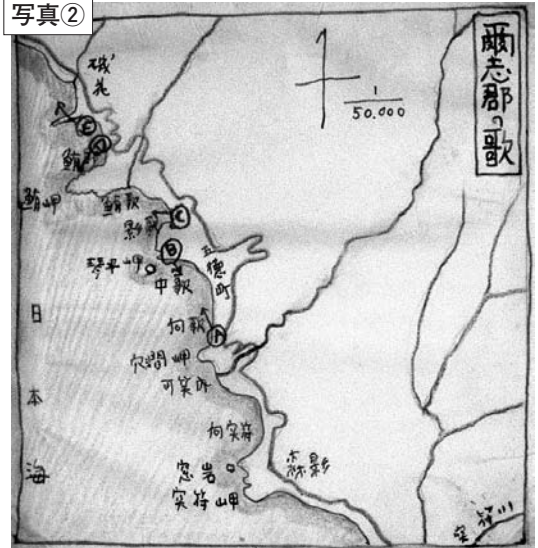
青森県津軽半島外ヶ浜町の「^{うだ}宇田」と北海道檜山地方の「歌」
(資料番号「資料名」: YF0092「津軽半島記」、YF0042「江差・松前 三六」)

写真①



宇田
頃々川の西が宇田。
この辺から御嶽の國 砂利と砂との混った浜。
それから先は磯浜が広がっていた。

写真②



写真③



写真①は、山田秀三氏による津軽半島の地名調査の記録ファイル中、平館灯台の北にある「宇田」(現在の外ヶ浜町石崎付近)の写真を貼付したページ。写真の下のメモ書きは山田氏によるもの。

写真②は、江差・松前付近の地名調査の記録ファイル中、乙部町の海岸沿いを手描きした地図。「中歌」「向歌」など「歌」の付く地名がチェックされている。写真③は、この地図に記された「歌」の付く地名のうち「中歌」の写真。

いずれも1961(昭和36)年の記録である。

山田氏は、この「宇田」と「歌」が、いずれもアイヌ語のオタ(砂、砂浜)に由来するものだと考え、地図を広げて同じような名の地名を抜き出し、現地を廻って土地のようすを確かめていった。

●もくじ

山田秀三文庫の資料から

青森県津軽半島外ヶ浜町の「宇田」と北海道檜山地方の「歌」 1

フィールドからデスクから

自著紹介『アイヌ語文法の基礎』 2

『ボン カンピソ』の写真から [5]

アイヌの食器 椀 3

公開している資料から [2]

「SPOKEN AINU」と「アイヌ語日常会話テキスト」 4

寄贈を受けた資料 6

お知らせ 8

うだ 宇田

平館灯台を過ぎ、弥蔵釜、頃々川を渡ると宇田である。〔中略〕

「うだ」は、西の方に行くと低湿地のこところしいが、此の辺の海岸地帯にあつたら、先ずはアイヌ語のオタ(砂、砂浜)の訛音と考えてよさそうである。

北海道南部では「うた」「歌」の形に訛った地名で残っている。〔中略〕

そう思って、頃々川の西で海岸に降りて見た。宇田部落との間に立派な浜があつたが、砂利浜だ。砂は混っている程度である。おやと思った。併し考えて見ると、北海道のオタ或いは「歌」のつく地名は、現在必ずしも砂浜でない。屢々砂利浜の形に出逢っている。時代によって海流や風で、砂が寄ったり、砂利浜に変ったりしているようだ。

松浦武一郎は西の方から此の海岸を歩いて来たのだった。後で〔松浦日誌〕を読んだら、「歌村(註、今の宇田)。定めてヲタ村なるべし。此処初めて砂を見る」と書いてある。その頃は砂浜だったのだろう。

(「津軽半島の記録」『うとう』第56号、1961年8月。のち『アイヌ語地名の研究 山田秀三著作集 第3巻』に収録)

自著紹介 『アイヌ語文法の基礎』

本年4月、大学書林より拙著『アイヌ語文法の基礎』を出版しました。手前味噌となるのを承知で、簡単な紹介をしてみたいと思います。



佐藤知己
『アイヌ語文法の基礎』
大学書林 8,500円(本体価格)

本文は279ページまでが基本文法を説明した**文法篇**、375ページまでが神謡と散文物語を材料とした**講読篇**です。これに**文法用語一覧**と**主要語彙索引**が付録として付きます。

文法篇では、まず全体を概観した後、**発音や表記**を学び、さらに**アイヌ語の文の基本的な骨格**を学びます。次に、**助詞、助動詞**のような文の構成上重要な役割を担う語類について学びます。その後で**動詞**に関する基本的知識(**自動詞と他動詞、単数と複数の区別**)を学びます。ここ(1課から14課)まででアイヌ語の文法における基本的な事項は一区切りついたこととなりますので、15課から17課で、あらためて一つの文のタイプ(**否定文、命令文、疑問文**)についてじっくり学びます。以後、18課から20課まででは、アイヌ語の文法のなかでも難易度が高い、**動詞、名詞の人称変化**を学びます。また、21課、22課では、従属的な文が主要な文の中にいわば「埋め込まれる」ような**複雑な構文**を学びます。初歩のレベルの知識としては、ここまでで十分だと思います。

23課以降は、知らなくても実際にはさほど困りませんが、アイヌ語の文法構造の理解の上では重要な現象を中心に説明してあります。23課から25課まででは、**時間に関わる表現法**を学びます。26課から32課まででは、**動詞**に関わる様々な文法現象(**不定人称、受け身、抱合、分離動詞、使役、充当態、再帰**など)を学びます。最後に、33課から35課まではいわば付録で、知っていれば便利、あるいは必要な場合に参照すればよい、というような事項(**数詞、口**

承文芸、語形成)を説明してあります。

以上で文法に関する基本的な問題点はだいたい説明したことになりますので、次の**講読篇**でテキストを読解することによって基礎固めを行います。文法篇の参照箇所の指示が付けてありますので、文法篇で学んだことを実例を通して再確認できます(なお、**講読篇**のテキストについては、今後、**音声CD**が別途作成され、市販される予定です)。

* * * * *

申し遅れましたが、本書はアイヌ語**千歳方言**話者**白沢ナベさん**からご教示いただいた資料に基づいています。ただ、今回は、一つの新しい試みとして、筆者による作例は一切使っていないのが大きな特色です。もっとも、初学者には難しいと感じられるような例文が多かったり、研究者間で異論が少なくない点も多いのですが、本書ではその旨を断りつつ、あえて冒険的、仮説的な意見を述べたところもあります。それに、筆者の専門外、関心外である文化面については、理解不足を恐れてあえて一切触れませんでしたので、人によっては文法の話ばかりで堅苦しいという印象をお持ちになるかもしれません。その上、特殊な分野であるため、値段が高い、という致命的な欠点もあります。しかし、筆者の意見に同意する、しないは別としても、本書は必ずやアイヌ語の理解に益するところがあるものと信じます。もちろん、筆者の能力不足による説明の不備、各種の不統一、「語学のプロ」には冗長と感じられるであろう説明の重複も多々ありますが、今後も改善に努めたいと思っています。皆様のご教示をお待ちする次第です。

* * * * *

思えば、知里真志保博士の『アイヌ語入門』を高校の図書館で手にして以来三十年。僭越ながら、本書は知里先生の投げかけられた問いに対する私なりの一つの答えだと思っています。

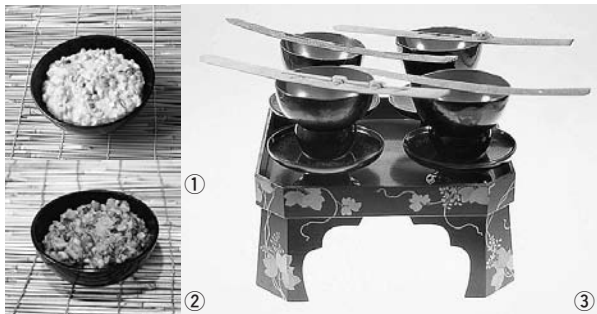
本書ができるだけ多くの方に読まれて、次の世代へアイヌ語研究をリレーする一助となることを願っております。

(北海道大学准教授/当研究センター非常勤研究職員・佐藤知己)

『ボン カンピソシ』の写真から [5] アイヌの食器 わん
碗

当研究センターは、1995（平成7）年度から2004（平成16）年度まで毎年1冊ずつテーマを定め、アイヌ文化を紹介する小冊子『ボン カンピソシ』を発行してきました。このコーナーでは、小冊子に掲載した写真の中からいくつかを取り上げ、紙面には盛り込めなかった説明などを補いながら、小冊子の中身を広げていきます。

アイヌの食器には、いくつかの種類があります。中でもよく知られているのは、漆塗りの碗です。漆碗には食器として用いられるもの〔①②〕と、カムイへの祈りの際に、天目台に乗せて杯として用いられるもの〔③〕があります。北海道ではこの2種類の漆碗のうち食器用ものを「イタンキ (itanki)」と呼び、カムイへの祈りに用いる杯を「トゥキ (tuki)」と呼びます。この呼び方はほぼ全道的に用いられています。



①② 『ボン カンピソシ』 p. 13 写真18、19
(静内町アイヌ民俗資料館所蔵写真)
 ③ 『ボン カンピソシ』 p. 23 写真18
(財団法人アイヌ民族博物館所蔵)

用途も名称も異なりますが、口径や高さなどの形態ではほとんど差がありませんので、実際に残っているものの区分は難しく、もっぱら文様に頼って区分しています。無地のもの、文様の少ないものなどをイタンキと呼び、一見豪華に見える文様の面積の広いものや三巴や葵などの家紋を施したものをトゥキと呼んでいます。しかし、その境目ははっきりしません。

アイヌは漆器を作りませんでしたから、儀礼具や食器として用いた漆器は、すべて本州から入手しました。アイヌの民具として用いられる漆器は、碗、注口付きのものを含む鉢、盥、行器などですが、これらは儀礼具として用いることが多く、日常の食器として使われたのはイタンキぐらいです。

* * * * *

北海道では、食器として用いられるのは、このイタンキと呼ばれる漆碗が主です。ところが、サハリンでは、漆碗の食器はほとんど使われず、木を刳った碗が主に用いられます。片側ないしは両側に把っ手（“耳”と呼んでいます）がついた「チェペニパポ (cepenipapo)」などと呼ぶ細長い碗〔④⑤〕と、両端が高く盛

り上がった、ほぼ円形に見える（実際は四角）の「シカリンパハ (sikarinpax)」と呼ぶ碗〔⑥〕の2種類があります。耳の部分には、刻みで文様を施すものや、稀にガラス玉を埋め込むものもあります。

北海道アイヌとサハリンアイヌの民具で大きく異なるのが、この食器としての碗の存在です。

北海道内には、アイヌの漆器として残されている以外に和人の魚場で使用した食器も残されています。皿などは、魚場の食器として相当数が北海道に入ってきているはずですが、アイヌの民具として残されているものは少ないです。食器は、その盛る料理によって器が選ばれますので、お粥や汁の多い料理を主とするアイヌ料理を盛るには碗が適していたため、食器としては碗状のものが主であったと思われます。北海道でも、もともとは木を刳った碗を使っていましたが、いつの時代からか漆碗に取って代わられたと思われます。一方サハリンでは、食器用の碗は自製のものが使われ続け、現在知られる形のものが残ったと考えられます。

漆碗は、アイヌ向けの交易品として大量に生産して北海道に持ち込まれた可能性もあります。

博物館などのアイヌ民具の代表的なものとして漆器は必ずと言っていいほど展示されていますが、北海道に持ち込まれた歴史的な経緯や流通の経路などは未解明なままです。

参考文献 ・服部四郎編『アイヌ語方言辞典』1964年、岩波書店
 ・山本祐弘・知里真志保「樺太アイヌ民具」(山本祐弘『樺太アイヌ・住居と民具』1970年、相模書房)



④⑤ 『ボン カンピソシ』 p. 19 写真27、29
 ⑥ 『ボン カンピソシ』 p. 19 写真28
(北海道大学北方生物園フィールド科学センター植物園所蔵)

山田秀三文庫 「SPOKEN AINU」と「アイヌ語日常会話テキスト」

当研究センターでは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」、職員による採録資料などの公開を、平成15年度から開始しています。このコーナーでは、これまでに公開した資料の中からいくつかを取り上げ、その特徴や意義、あるいは関連する情報などをお知らせしています。

アイヌ語地名研究の第一人者としてつとに知られる山田秀三氏ですが、それ以外にも早くからアイヌ語やアイヌ文化に深く関心を寄せていました。自分が学ぶだけにとどまらず、アイヌ文化を記録し、その保存・伝承のための活動にも積極的に取り組んでいました。

文書資料「SPOKEN AINU」〔YD0122〕は、久保寺逸彦氏・萱野茂氏・萩中美枝氏らの協力のもと、アイヌ語日常会話テキストと、アイヌ語話者による発音が聞けるソノシート*をセットで作る企画があったことを示す資料です。今回はこの文書資料と、これに関連する音声資料について紹介します。

* * * * *

文書資料YD0122は1冊のファイルで、背と表紙に「SPOKEN AINU」と書かれており、今回紹介するアイヌ語日常会話テキスト（以下「テキスト」）のほか、封筒入りの神謡の訳解の資料も綴じられていました。

テキストには、青焼きコピーを製本したものが1冊、製本されていないセットが3組、バラバラの青焼きコピーが多数ありました。いずれも本文は、横組み2段の見開き2ページを単位とし、左ページ左段にカナ表記のアイヌ語例文、右段に和訳、右ページ左段に英訳、右段に例文の注釈を記しています。各章冒頭ではその

* 薄く柔らかいビニル製のレコード盤で、当時、音声を何かに付録するような場合によく用いられました。

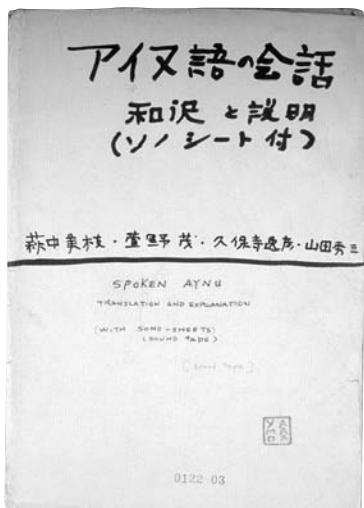
章のテーマについて短く解説し、内容によっては見開き2ページの下に図や参考事項を載せる欄を設けるなど、実際に出版する際のイメージがかなり反映されているものと思われます。

テキストの構成（目次）は次のようになっています。

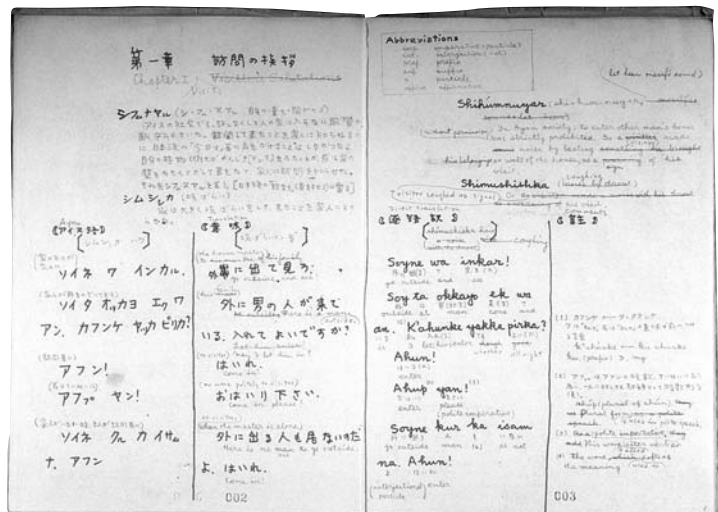
はしがき
凡例
第1章 訪問の時の挨拶
第2章 懇意な訪問客
第3章 質疑応答
第4章 便所
第5章 帰る時の挨拶
第6章 数
第7章 食事
第8章 愛の言葉
第9章 子守歌
ソノシート

なお、山田秀三文庫文書資料には「SPOKEN AINU」のほかにも、テキストと関連すると思われるいくつかのファイル等がありました（文末の表を参照ください）。それぞれ、内容や表現が微妙に異なる箇所を含むことなどから、テキストの推敲と改稿が何度も重ねられたことがうかがわれます。

* * * * *



YD0122 青焼きコピー製本の表紙



YD0122 テキストの第1章より



YC000108 (左)ケース (右)オープンリールテープ

「SPOKEN AINU」の中の、青焼きコピー製本の表紙には、「アイヌ語の会話 和訳と説明 (ソノシート付)」と書かれています。その表紙裏には、山田氏自身による解題的な文章が付されています。

昭和30年代終りごろだったろうか。よく久保寺さんに札幌に来て貰って遊んだ。仲間は萩中さん。観光客用にアイヌ語会話集を作ろうかということになり、山田が先ず原稿を作る役目。前、平賀サダモさんに教わったテープから若干を抜き、足りない処は萱野茂さんに話を聞いて先ずこんなものを作った。英語を入れようということになり、山田が図々しくブロークンな言葉をそれに付けた。だが専門外のこと、何とも自信が持てないので、印刷に廻す元氣もなく、そのままにして置いたものであった。

ここに述べられた「前、平賀サダモさんに教わったテープ」とは、音声資料「アイヌ語会話1」(YC000108)と思われます。原資料のオープンリールテープの箱書きには、「昭和38年秋 アイヌ会話の勉強 平賀サダモさん 登別にて」とあります。この資料には、テキストの1～5章に登場する会話文のもととなったと思われる表現について、平賀氏が丁寧に発音・解説し、山田氏がそれを復唱しメモをしながら教わっているようすが収録されています。

音声資料「アイヌ語日常会話テキスト1」「同2」「同4」(YC000118、YC000119、YC000120)は、「若干を抜き、足りない処は萱野茂さんに話を聞いて」作ったというテキストを、こんどはソノシート用に萱野氏が朗読するのを録音したものと思われます。さらに「同3」(YC000172)では、貝澤とろしの氏と萱野氏が、テキストの7～8章の会話を役割練習するうちに、別の表現が貝澤氏から出され、それをまた録音し直すといったやりとりも聞くことができます。

また、音声資料「アイヌ語会話テキストの練習1～5」(YC000175、YC000166、YC000180、YC000179、YC000137)は、山田氏自身がテキストを音読するようすも伝えています。

* * * * *

現在では、音声資料を付録したアイヌ語教材

もそれほど珍しくありませんが、当時としては先進的な企画だったといえるでしょう。専門的知見に支えられた一般向けの教材として、日常会話を中心とする簡便なテキストにネイティブスピーカーの発音が聞けるものを付録する、という発案には、アイヌ語学習のあり方に対する山田氏の先見性がうかがわれます。山田氏自身の意欲に加え、久保寺氏という当時の数少ないアイヌ語研究者をはじめ、アイヌ文化伝承者で幅広い知識と経験を持つ萱野氏や、口承文芸をはじめアイヌ文化に造詣の深い萩中氏らという、山田氏ならではの脈に支えられたこの企画は、もし出版が実現されていたら、現在に至るアイヌ語学習の流れも変わっていたかもしれない、と想像をかきたてられます。

出版に至らなかった背景は、詳しくは分かりませんが、一つにはもちろん、山田氏の「専門外のことなので何とも自信が持てないので」といった謙虚で慎重な姿勢のためもあるでしょう。また、アイヌ語話者による朗読を録音してはまた改訂し、時には自ら練習もするといった入念な作業を繰返すうちに、どこかで最終稿とする区切りがなかなかつかず、「そのままにして置いたものであった」のかもしれない。

今回紹介した資料

原資料番号	タイトル	時間(分)	公開用資料番号
文書資料			
YD 0122	SPOKEN AINU	—	—
YD 0015	SPOKEN AINU	—	—
YD 0260	[アイヌ語会話資料]	—	—
YD 0295	[アイヌ語の挨拶、祈り言葉]	—	—
YD 0328	[アイヌ語会話資料]	—	—
YD 0329	アイヌ語の会話	—	—
YD 0648	[アイヌ語日常会話テキスト関係資料]	—	—
音声資料			
YC000108	アイヌ語会話 1	21	YC800035
YC000118	アイヌ語日常会話テキスト 1	24	YC800036
YC000119	アイヌ語日常会話テキスト 2		
YC000172	アイヌ語日常会話テキスト 3		
YC000120	アイヌ語日常会話テキスト 4		
YC000175-01	アイヌ語日常会話テキストの練習 1	15	YC800037
YC000166-01	アイヌ語日常会話テキストの練習 2		
YC000180	アイヌ語日常会話テキストの練習 3		
YC000179-01	アイヌ語日常会話テキストの練習 4		
YC000137	アイヌ語日常会話テキストの練習 5		

・「SPOKEN AINU」の一部は、企画展「アイヌ語地名を歩く」(→8ページ) 会場で、パネルにして展示します。
 ・「アイヌ語会話1」「アイヌ語日常会話テキスト1～4」「アイヌ語日常会話テキストの練習1～5」は、センターの閲覧コーナーで試聴できます。

寄贈を受けた資料 (2008年3月～8月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼申し上げます。

アイヌ語地名研究会

・アイヌ語地名研究会報 第32号

アイヌ文化振興・研究推進機構

- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために〔中学生向け副読本〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために〔小学生向け副読本〕
- ・第10回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー
- ・第11回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー
- ・アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第4号、第6号、第7号
- ・セブとオオカミのやくそく
- ・平成19年度イオル再生事業（白老地域）事業実施報告書
- ・平成20年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.2
- ・平成19年度普及啓発セミナー報告集
- ・アイヌの工芸 ペンシルバニア大学考古学人類学博物館ヒラーコレクション

アイヌ無形文化伝承保存会

・アイヌ文化 第21号～第32号

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

- ・青森県史だより 第16号
 - ・青森県史叢書 岩木川流域の民俗
 - ・青森県史 資料編 古代2 出土文字資料
- ### 青森県立郷土館
- ・青森県立郷土館調査研究年報 第32号
 - ・青森県立郷土館だより Vol. 38 No. 1～Vol. 38 No. 3
 - ・青森県立郷土館報 平成20（2008）年度版通巻35号
 - ・よみがえれ北前船 北国の海運と船展

秋田県公文書館

- ・秋田県公文書館研究紀要 第14号
- ・秋田県公文書館だより 第22号
- ・秋田県庁文書群目録 第5集 明治40年～大正15年①
- ・秋田県公文書館 平成20年度企画展 武士の日記を読む

旭川市博物館

- ・旭川市博物館所蔵品目録 ⅩⅧ 民族資料／儀礼関係：本幣2・送り場資料
 - ・旭川市博物館研究報告 第14号
- ### アジア・太平洋人権情報センター
- ・国際人権ひろば No. 78～80

安平町教育委員会

・安平町 富岡6遺跡・源武15遺跡

彦岐一郎

・映像文化論 沖縄発

いしかり砂丘の風資料館

・エスチュアリ いしかり砂丘の風資料館だより No. 30～32

伊能忠敬記念館

・伊能忠敬記念館年報 第9号 平成18年度・2007特別展 西日本測量と絵地図

浦幌町立博物館

・浦幌町立博物館 年報 第8号
・浦幌町立博物館 紀要 第8号

恵庭市郷土資料館

・恵庭市郷土資料館年報 第14号

小樽市総合博物館

・小樽市総合博物館紀要 第21号

乙部町

・おとべ植物ガイドブック 森からのおくりもの
・乙部町史年表

帯広市

・広報おびひろNo. 1006

帯広市図書館

・帯広叢書 第59巻 吉田巖資料集25

帯広百年記念館

・帯広百年記念館紀要 第26号

海津市歴史民俗資料館

・館報 平成19年度号

学習院大学史料館

・ミュージアム・レター No. 7、8
・学習院大学史料館所蔵史料目録第21号 武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書（7）

風間伸次郎（編）

- ・ツングース言語文化論集39 清文彙書 翻字再配列版
- ・ツングース言語文化論集40 ナーナイの民話と伝説11
- ・ツングース言語文化論集41 ソロンの民話と伝説2
- ・ツングース言語文化論集42 ウデヘ語テキスト4
- ・ツングース言語文化論集43 ウルチャ語口承文芸原文集4
- ・ツングース言語の三人称代名詞について〔論文コピー〕
- ・ナーナイ語とウデヘ語の付属語について〔論文コピー〕

角川クロスメディア

・ハイウェイ・ウォーカー 北海道 No. 26

神奈川大学日本常民文化研究所

・歴史と民俗 第24号 神奈川大学日本常民文化研究所論集24
・民具マンスリー 第40巻第11号、第12号・第41巻第1号～第3号

上士幌町ひがし大雪博物館

・上士幌町ひがし大雪博物館研究報告第30号

上ノ国町教育委員会

・史跡上ノ国勝山館跡整備事業報告書 I、II
・町内遺跡発掘調査等事業報告書 X、XI
・史跡上ノ国館跡 I

釧路公立大学

・釧路公立大学紀要 人文・自然科学研究 第20号

釧路市総務部地域史料室

・地域史料室通信 第1号、第2号

群馬県立文書館

・群馬県立文書館 文書館だより 第45号

航空科学振興財団歴史伝承委員会（千葉県）

- ・歴史伝承委員会だより 第10号
- ・歴史伝承委員会調査報告書 第4号（通巻第10号）

高知県立牧野植物園

・高知県立牧野植物園だより No. 33
・まきの手帖

神戸市立博物館

・神戸市立博物館 博物館だより No. 93
・コープさっぽろ
・びあっと Vol. 111

国学院大学研究開発推進機構

・国学院大学研究開発機構 プロジェクト研究報告 人文科学と画像資料研究 第5集
・写真資料デジタル化の手引き 保存と研究活用のために

国土交通省室蘭開発建設部

・ベア・ライン 第8号、第9号

国立民族学博物館

・国立民族学博物館研究報告 第32巻第3号、第4号
・月刊みんぱく 第32巻第3号～8号
・研究年報2006〔国立民族学博物館〕
・民博通信 No. 120、121
・北海道内の主要アイヌ資料の再検討
・深奥の中国：少数民族の暮らしと工芸

札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部

・紀要 第38号

札幌学院大学学芸員課程

・札幌学院大学学芸員課程年報 21

札幌国際大学

・札幌国際大学紀要 第39号

札幌市教育委員会（編）

・アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料 第5集

札幌市総務局文化資料室

・文化資料室ニュース 第4号、第5号
・「新札幌市史」機関誌 札幌の歴史 第54号

・新札幌市史 第8巻Ⅱ 年表・索引編
・新札幌市史 完結記念シンポジウム 史料から歴史を探る 開催報告書

札幌大学

・地域と経済 No. 5
・あの時日本は？ 歴史認識を問う

佐藤知己

・アイヌ語千歳方言における合成名詞の構造

沙流川歴史館

・沙流川歴史館だより No. 29、30

・沙流川歴史館年報 第9号

滋賀県立琵琶湖博物館

・うみんど 第46号

滋賀大学経済学部附属史料館

・滋賀大学経済学部附属史料館 研究紀要 第41号

標津町教育委員会

・史跡標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡

市民外交センター

・市民外交センター 年次報告書 2005年、2006年

斜里町立知床博物館

・野外図鑑 知床のシダ
・知床博物館研究報告 第29集
・博物館のひろば No. 98 流水と溶岩が作った知床半島の断層地
・博物館のひろば No. 99 レッドリストにのった知床の動物たち

城西国際大学物質文化研究センター

・物質文化研究 第5号

白老町

・平成19年度イオル再生事業 アイヌの有用植物分布調査報告書

新潮社

・コミックパンチ 第8巻第31号

世界人権宣言大阪連絡会議

・世界人権宣言大阪連絡会議ニュース No. 307～312

「先住民族サミット」アイヌモシリ2008事務局

・「先住民族サミット」アイヌモシリ2008 資料集

先住民族の10年市民連絡会

・先住民族の10年 News 第142号～第146号

全日空

・翼の王国 通巻468号

創価大学社会学会、同人間学会

・ソシオロジカ Vol. 31 No. 1・2、Vol. 32 No. 1・2

・創価人間学論集 創刊号

園部文化博物館

・園部ゆかりの画家たち

高橋規

・アマッポの原理を利用した銃によるヒグマ猟について

高橋靖以

・アイヌ語十勝方言テキスト：クマの追跡を逃れた話
・アイヌ語十勝方言の進行相を表す形式 kor an について
・アイヌ語を読むために〔コピー〕
・アイヌ語十勝方言テキスト：「ヤナギの神」と「ヨタカ」

竹内涉

・森久吉研究報告書 森久吉研究ノート

千葉大学ユーラシア言語文化論講座

・千葉大学ユーラシア言語文化論集 第10号

千葉昇

・北海道 大沼公園昔語り

出村文理

・アイヌ文化関係書誌の書誌
・ニール・ゴードン・マンロー博士書誌（抄）、『知里幸恵書誌』を編集・刊行して

東京都江戸東京博物館

・江戸東京博物館NEWS Vol. 61、62
・東京都江戸東京博物館研究報告 第14号

東北芸術工科大学東北文化研究センター

・季刊東北学 第15号、第16号
・まんだら Vol. 35、36

東北大学東北アジア研究センター

・『御製満珠蒙古漢字三合切音清文鑑』満州後配列対照語彙 東北アジア研究センタ

一叢書 第30号
 ・ロシア史料にみる18～19世紀の日露関係 第3集 東北アジア研究センター叢書 第31号
 ・地域分析と技術移転の接点：「はまる」「みる」「うごかす」視点と地域理解 東北アジア研究シリーズ 9
 ・東北アジア研究 第12号
 ・東北大学東北アジア研究センターニュースレター CNEAS 第36号
東北電力広報・地域交流部
 ・白い国の詩 通巻602号、603号
東北歴史博物館ほか
 ・古代北方世界に生きた人びと：交流と交易 展示図録
徳島県立文書館
 ・徳島県立文書館 文書館だより 第29号
 ・第35回企画展 写真で見る“ちょっと昔”の阿波の名所
 ・徳島県立文書館年報 第11号 平成19年度
 ・徳島県立文書館研究紀要 第5号
苫小牧駒澤大学
 ・苫小牧駒澤大学紀要 第18号
苫小牧市博物館
 ・苫小牧市博物館だより No.57
 ・館報 第5号
苫小牧市立中央図書館
 ・ぱびるす 図書館情報紙 Vol.23
内閣府広報室
 ・Cabiネット 第2巻第3号
中里町〔現中泊町：青森県〕立博物館
 ・中里町立博物館常設展示図録
長野県立歴史館
 ・信濃の風土と歴史 14 わざわい 人びとのくらしと災害
 ・長野県立歴史館研究紀要 第14号
 ・長野県立歴史館だより Vol.55
中村和之
 ・蝦夷錦の製作年代と流通に関する研究
名寄市北国博物館
 ・北国研究集録 第11号
南山大学人類学博物館
 ・南山大学人類学博物館紀要 第26号
南丹市立文化博物館〔園部文化博物館から改称〕
 ・南丹市発足記念 平成18年度秋季企画展 電化製品がやってきた！
 ・平成19年度 春季企画展 ふるさとの画家 麻田辨治
 ・平成19年度 夏季企画展 南丹市の遺跡
 ・平成19年度 秋季企画展 なんとんの味 郷土・季節・行事の食
 ・南丹市立文化博物館だより No.1、No.2
新潟県立文書館
 ・新潟県立文書館研究紀要 第11号
 ・新潟県立文書館だより 第10号
 ・新潟県立文書館年報 第16号 平成19年度
沼津市明治史料館
 ・沼津市明治史料館通信 第23巻第3号、第4号、第24巻第1号、第2号
登別市教育委員会
 ・登別市富岸川右岸遺跡
函館市教育委員会
 ・函館市白尻小学校遺跡 豊崎遺跡群
 ・函館市桔梗2遺跡 函館市埋蔵文化財事業 団発掘調査報告書第3輯
 ・函館市桔梗2遺跡 函館市埋蔵文化財事業 団発掘調査報告書第4輯
市立函館博物館
 ・はこだて博物館 街と共に歩んだ函館博物館の120年
 ・SARANIP 市立函館博物館報サラニップ No.1、No.11～No.17、No.20～47
 ・市立函館博物館研究紀要 第1号～第7号、第9号～第18号
 ・市立函館博物館研究紀要 第18号
反差別国際運動日本委員会
 ・IMADR-JC通信No.153、154
仏教大学文学部
 ・仏教大学文学部論集 第92号

船橋市郷土資料館
 ・市政70周年記念特別展 「船橋のあゆみ」パンフレット
 ・船橋市郷土資料館 資料館だより 第90、91号
麓 慎一
 ・北千島アイヌの改宗政策について：色丹島におけるアイヌの改宗政策と北千島への帰還問題を中心に
部落解放・人権研究所
 ・研究所通信 No.355～No.360、号外〔部落解放・人権研究所第68回総会議案書〕
 ・ローカルとグローバルの交叉のなかで (社)部落解放・人権研究所創立40周年記念典・レセプション
文化学園図書館
 ・〔文化学園図書館〕図書館だより No.146
北翔大学短期大学部
 ・北翔大学短期大学部研究紀要 第46号
北海学園大学学芸員課程
 ・北海学園大学学芸員課程学事報告書 12～15
北海学園大学学術研究会
 ・北海学園大学 学園論集 第135号、136号
北海道
 ・ほっかいどう未来創造プラン
 ・ほっかいどう未来創造プラン〔概要編〕
 ・アイヌモシリ アイヌ民族の誇り〔DVD〕
 ・第58回 全国植樹祭2007北海道〔DVD〕
 ・第58回 全国植樹祭記念誌
 ・全国植樹祭だより 夢見る苗木 最終号
北海道遺産協議会
 ・千の年を重ねても、宝物 52の物語 北海道遺産
北海道ウタリ協会
 ・アイヌ民族の概説：北海道ウタリ協会活動を含め
北海道ウタリ協会白糠支部ほか
 ・ウレシバ シラリカ 2007しらぬかアイヌ文化年
北海道開拓記念館
 ・北海道開拓記念館だより Vol.37 No.3～Vol.38 No.1
 ・近世蝦夷地のすがた 豆本49
 ・北海道開拓記念館研究紀要 第36号
 ・北海道開拓記念館調査報告 第47号
 ・北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史 2005～07年度調査報告
 ・北海道開拓記念館要覧 2007年度
ほっかいどう学検定推進機構
 ・ほっかいどう学検定公式問題集 歴史・文化編
北海道環境財団
 ・北海道環境財団月刊ニュースレター T GAL No.124～No.129
 ・2007年度活動報告書
北海道教育委員会
 ・ピラサ 第2号～第4号
北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課
 ・平成19年度アイヌ民俗文化財調査報告書 伝承聞き取り調査IV
 ・平成19年度 知里真志保フィールドノート(7)
 ・アイヌ民俗文化財ユーカーラシリーズ 30
北海道ジェイ・アール・エージェンシー
 ・The JR Hokkaido No.245
北海道社会保険協会
 ・社会保険ほっかいどう No.386
北海道大学
 ・リテラ・ポプリ 第34号
北海道大学総合博物館
 ・北海道大学総合博物館ニュース 第16号、17号
 ・北海道大学総合博物館第51回企画展示 水産科学館に蓄積された水産学部100年の歴史
北海道大学大学院教育学研究院
 ・教育福祉研究
北海道大学大学院水産科学研究院
 ・海洋調査漁業試験要報 第51号
 ・北海道大学水産科学研究集報 第57巻第3号、第58巻第1・2号

北海道大学文書館
 ・北海道大学大学文書館年報 第2号、第3号
北海道文化財保護協会
 ・文化情報 第306号～第308号
 ・北海道の文化 80号
 ・文化財保護の足跡
北海道埋蔵文化財センター
 ・千歳市 キウス5遺跡(8) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書251
 ・千歳市 キウス9遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書252
 ・千歳市 梅川4遺跡(1) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書253
 ・釧路市 天寧1遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書254
 ・江別市 対雁2遺跡(8) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書255
 ・白老町 虎杖浜2遺跡(4) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書256
 ・北斗市 矢不來6遺跡(2)、矢不來9遺跡、矢不來11遺跡(2) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書257
北海道立文書館
 ・北海道立文書館史料集 第二十三 北海道庁例規目録 明治十九年～二十九年
北海道立北方民族博物館
 ・第22回北方民族文化シンポジウム報告書 北太平洋の文化 北方地域の博物館と民族文化2
 ・北海道立北方民族博物館研究紀要 第17号
 ・北方民族博物館だより No.68、No.69
北方圏センター
 ・季刊北方圏 第138号、第143号
盛岡市先人記念館
 ・盛岡市先人記念館だより
森町教育委員会
 ・森町埋蔵文化財調査報告書 第13集 駒ヶ岳1遺跡
 ・森町埋蔵文化財調査報告書 第14集 鷲ノ木遺跡〔調査報告書〕
 ・森町埋蔵文化財調査報告書 第15集 鷲ノ木遺跡〔環状列石と堅穴墓域〕
 ・森町埋蔵文化財調査報告書 第16集 町内遺跡発掘調査事業報告書I 鷲ノ木遺跡
森 美典
 ・豊浦町・洞爺湖町・伊達市・壮瞥町のアイヌ語地名考
 ・アイヌ語地名研究資料集(2) 虻田町史編集室蔵 白井柳治郎氏収集資料集
ヤユーカーラの森
 ・Yay Yukur Park 59、60
八雲町教育委員会
 ・八雲町百年のあゆみ
山本慎一
 ・北海道文化財保護あれこれ
和合会(八雲町)
 ・八重垣 第39号

【海外】
Smithsonian Institution National Museum of Natural History
 ・Arctic Studies Center Newsletter No.15

⇒ センターのホームページでは三か月ごとに、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

●平成20年度の企画展

「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2008・渡島／檜山／津軽海峡」

アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏の研究を通してアイヌ語地名の世界を紹介する企画展「アイヌ語地名を歩く」を、平成16年度から毎年開催しています。

前号でもお知らせしたとおり、今年度は市立函館博物館との共催により、函館市で開催します。多くの方のご来場をお待ちしています。

■場所・期間

・市立函館博物館（函館市青柳町17-1 函館公園内）

10月9日(木)～11月16日(日)

(休館：10月13・14・20・27・31日、11月4・10日)

※博物館常設展の入場料が必要です（大人100円、学生・生徒・児童50円）。日曜日は無料となります。

・函館市中央図書館（函館市五稜郭町26-1）

10月7日(火)～10月18日(土)（休館：10月8・15日）

※入場無料。パネルを中心としたミニ展示です。

■関連事業（講演会・講座）

10月11日(土) 13:30～17:00 函館市中央図書館

講座(13:30～) 「アットウシの歴史を追う

—海峽を挟んだ、生産・流通・着用の歴史—

本田優子氏（札幌大学教授）

講演会(15:00～) 「山田秀三氏の道南・青森での地名調査」

佐々木利和氏（国立民族学博物館教授）

10月12日(日) 13:30～15:00 市立函館博物館

講座 「山田秀三文庫の渡島・檜山地方に関する地名調査資料について」

研究センター職員

10月18日(土) 13:30～17:00 函館市中央図書館

講座(13:30～) 「渡島・檜山地方のアイヌ民族資料について」
谷本晃久氏（北海道大学准教授）、研究センター職員

講演会(15:00～) 「山田秀三文庫と渡島地方の古地図」

高木崇世氏（アイヌ語地名研究会会員）

詳細は、当研究センターのホームページにおいて、随時お知らせしています。また、函館市を中心に近隣の市町村でチラシを配布し、各所でポスターも掲示しています。

●「2008サイエンスパーク」

8月5日(火)、北海道と独立行政法人科学技術振興機構の共催による「2008サイエンスパーク」がサッポロファクトリー（札幌市中央区）で開催され、当センターも昨年に引き続いて参加しました。展示ブースでは、アイヌ語地名などのパネル展示のほか、ムックリ

の鳴らし方や、アイヌ語の簡単な会話の体験指導なども行いました。

詳細はセンターのホームページでも紹介しています。



研究センターのブースのようす

センターの刊行物

平成20年4月から9月までに、この『センターだより』29号のほか、次の刊行物を発行しました。

・『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2007（平成19年度）』（6月発行）

・『企画展図録別冊アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2008・渡島／檜山／津軽海峡』（9月発行）

『年報』と『センターだより』は、センターのホームページからもご覧いただけます。29号は、発行日から約2週間後に掲載します。

『企画展図録別冊』は、企画展会場及び草風館（047-723-1688）で発売する予定です。昨年度発行の本冊は1,000円、新発行の別冊が300円（いずれも本体価格）です。

平成20年度前半の動き

■人事短信（4月1日付）

（転出） ・副 所 長 長谷川 美代子

・総務課長 西 野 正 恭

（転入） ・副 所 長 近 藤 隆

・総務課長 石 栗 公 文

■行事など

・「2008サイエンスパーク」(札幌市) (8月)

・「平成20年度公文書館等職員研修会」(東京都：国立公文書館主催／参加：貝澤) (9月)

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2008年9月30日

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金／9:00～17:00 (土・日・祝日／休)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc>

この広報紙は、環境に配慮した用紙を使用しています（古紙配合率100%、白色度70%）。